

# 老いの道標

登山と人・文明・文化＝環境

( 実践的総合人間学 )



田中文夫

## 【 設計業務主要作品 】

神奈川県立歴史博物館（関内）、三ツ沢公園球技場（Jリーグ）、かながわアートホール（音楽ホール）、横浜港コンポジットタワー（航路管制信号）、金沢ツインタワーライン本社・車輛基地（並木中央）、横浜市栄区庁舎（戸塚区の分区）、県営瀬谷団地（大規模団地：瀬谷区）、横浜市俣野公園野球場（LED照明・LED照明）、新潟航空基地（国交省）、成田空港第2滑走路LED照明基地（国交省）、花巻法務支局（国交省）、鹿島法務支局（国交省）、高崎職安（国交省）、相模車輛検査場（国交省）、岐阜刑務所（法務省） その他公共建築、民間建築多数

## 【 著 書 】

- ・青春のヒマラヤに学ぶ : 文芸社、2001.01.01刊行 ISBN4-8355-1085-2
- ・頂きのかげに : 日本文学館、2003.08.15刊行 ISBN4-7765-0055-8

【 論 文 】 日本山岳文化学会 論集収録

- |                       |         |     |
|-----------------------|---------|-----|
| ・ 山岳文化環境（試論）          | 2004.11 | 第1号 |
| ・ 太陽光・風力発電とLED照明      | 2005.11 | 第2号 |
| ・ 山村文化環境における電力照明と光害   | 2007.11 | 第5号 |
| ・ 山岳登山体験による文化と文明解釈の試み | 2008.11 | 第6号 |
| ・ 山岳文化環境（その1） —       | 2010.11 | 第8号 |

山岳文化と総合人間学の融合（抄録）

【 所 属 】

- ・ 株式会社 システム・デザイン（代表取締役）
- ・ 株式会社 都市環境設計（専任・電気担当主任技術者）
- ・ 建築設備技術者協会 正会員（建築設備士）
- ・ 日本山岳文化学会 正会員（前・評議員）
- ・ 総合人間学会 正会員

プロローグ.	仕事と山と人生と	.....	1
第1章.	山の還暦	.....	111
	1.丹沢（寄沢） 滝郷沢	11	
	2.丹沢（寄沢） 地獄ザリ	12	
	3.谷川岳一の倉沢南陵	14	
	4.韓国 ウルサンバイとインスポン	16	
	5. ヒマラヤ登山中のヒゲ	21	
	6.古き山の道具	22	
	7. ネパール ヒマラヤ P29南西尾遭難	23	
	8.家族で アンナプルナ トレッキング	31	
	9.大学生たちと穂高へ	39	
	10.32年振りの夫婦山行 （アイガーから唐松岳）	45	
	11.今ふたたび、丹沢へ還る	50	
	12.山旅の記憶スケッチ展	76	
	13.地球温暖化とヒマラヤ氷河湖の肥大化	82	
第2章.	ヒマラヤ遭難登山隊長の自省	.....	89
	1.「山岳遭難とリーダー意識」を考える要因	90	
	2.遭難時におけるリーダーの意識	104	
	3.その後のリーダー意識の変遷	108	
第3章.	ある遭難が別な遭難を生む（情緒の伝播）	.....	111
	1.遭難対策は登山の第一条件	111	
	2.遭難が遭難を呼ぶ	113	

3.小説とP29遭難	117	
4.P29遭難と難波康子さんのエベレスト遭難	118	
5.遭難の誘因子	122	
<b>第4章. 失敗に学ぶ</b>		<b>124</b>
1.失敗の種類	125	
2.判断と責任の限界	126	
3.登山の安全性と危険性	128	
4.登山の失敗に学ぶ	130	
<b>第5章. 3.11とクライシス・マネジメント</b>		<b>135</b>
1.クライシスとリスクを区別	136	
2.クライシス・マネジメント	143	
3.リスク・マネジメント	156	
<b>第6章 中村純二博士の「正・反・合と進化」から考える</b>		<b>161</b>
1.中村純二博士の正反合	161	
2. 「正・反・合」～弁証法からの複合論	163	
3. 「合と新」のグループ	166	
4. スポーツと 人—文化—文明	174	
<b>第7章 老いの道標</b>		<b>182</b>
1.戦後世代と日本国憲法	182	
2.失って(体験)気づく、幸せという心の居場所	193	
3.欲求と欲望の考察	195	
4.死生観～はかなさという情緒	201	
5.差異共存未来社会の模索	206	
<b>エピローグ. 学者と技術者と</b>		<b>206</b>

初めての沢登り  
滝  
郷  
沢



F 1 涸滝の懸垂下降練習

谷川岳二ノ倉沢

南陵テラス

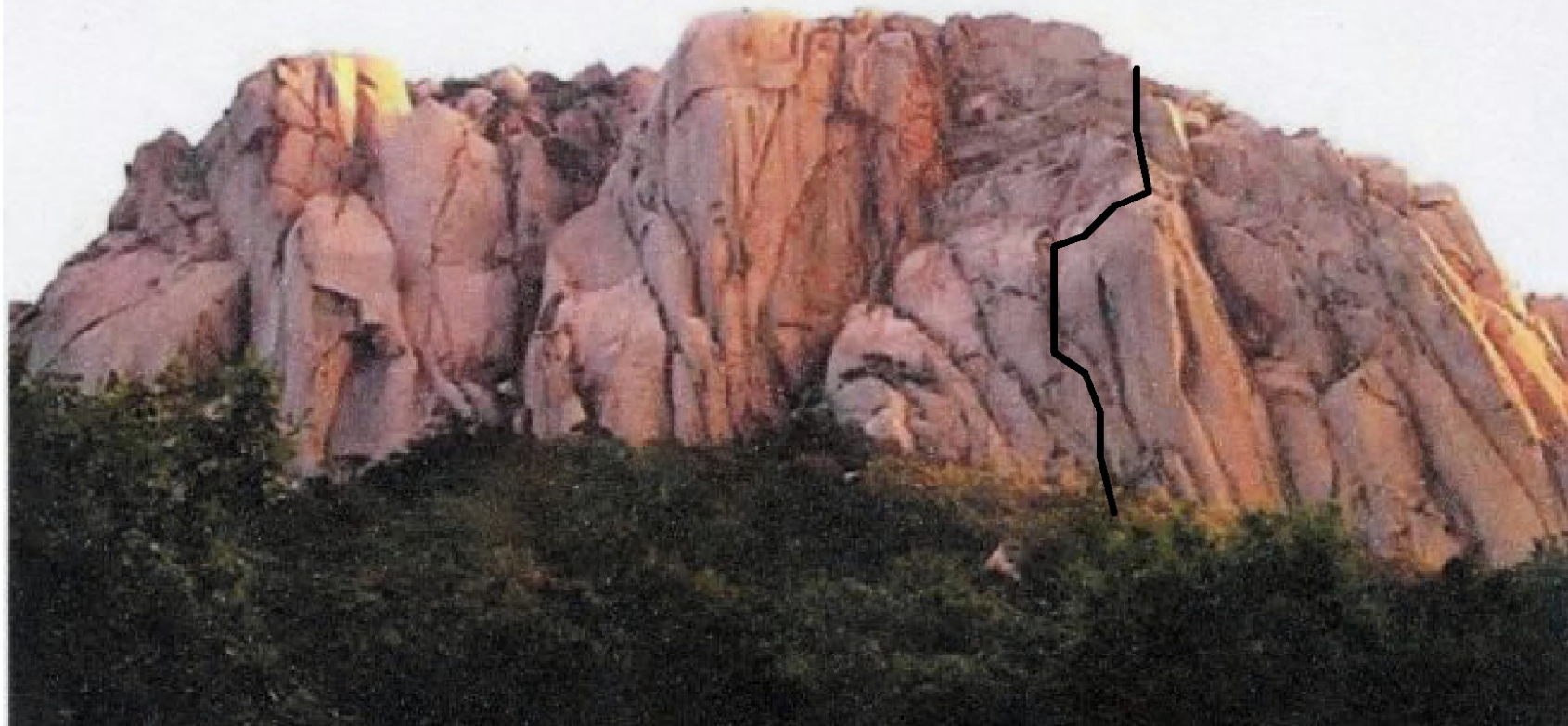


南陵テラスにて杉山君（左）と私

# 蔚山岩 (울산바위) ウルサンバウイ

1967.12.30 ~ 01.13

東京都山岳連盟日韓親善東京登山隊



記憶が薄れ、緑線の登攀ルートは確かではありません

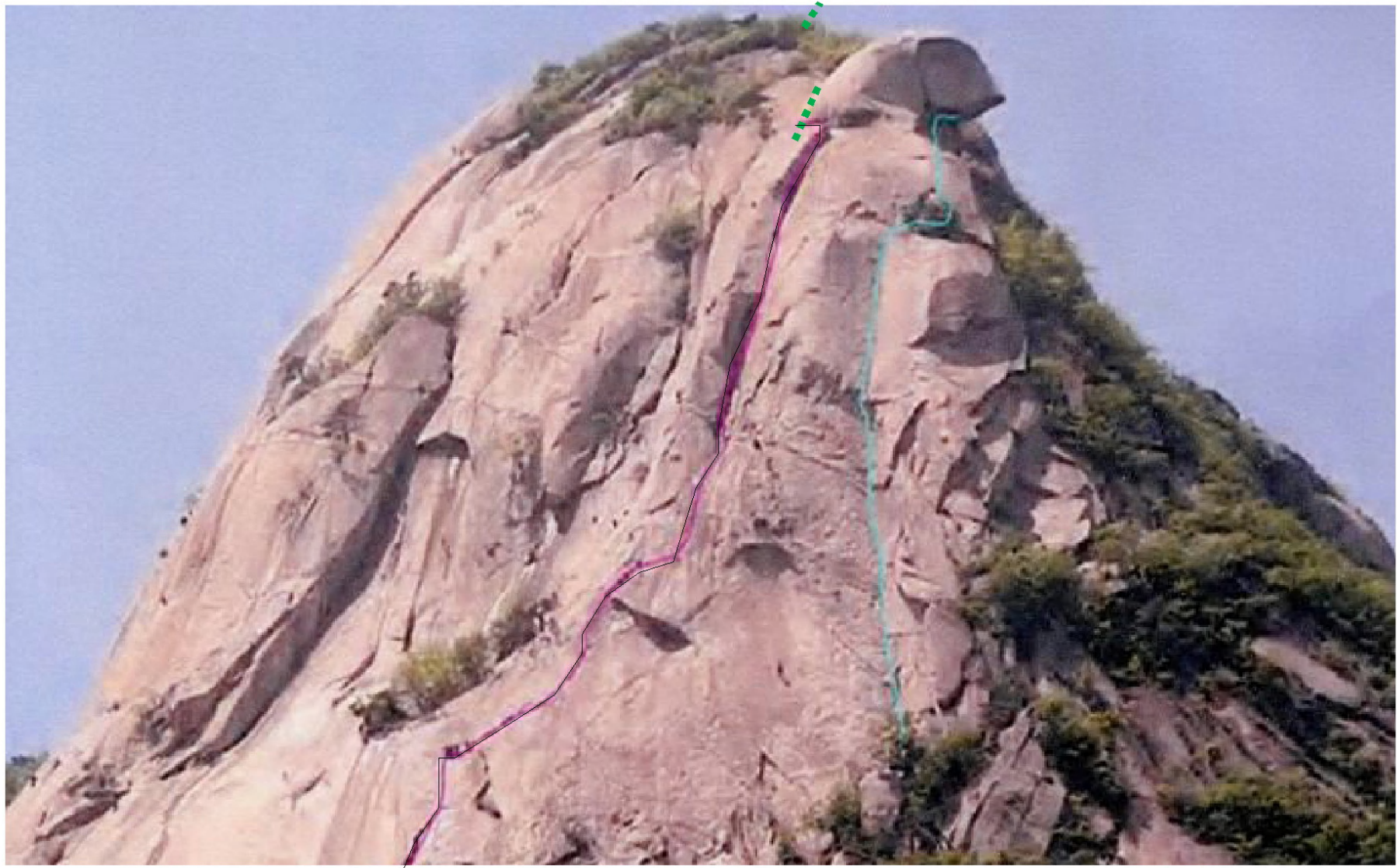
1 P=人工 (垂直~オーバーハング) 、

2 P以降=フリー (クラック~トラバース~フェイス)

(蔚山岩のフェースルート概念図)



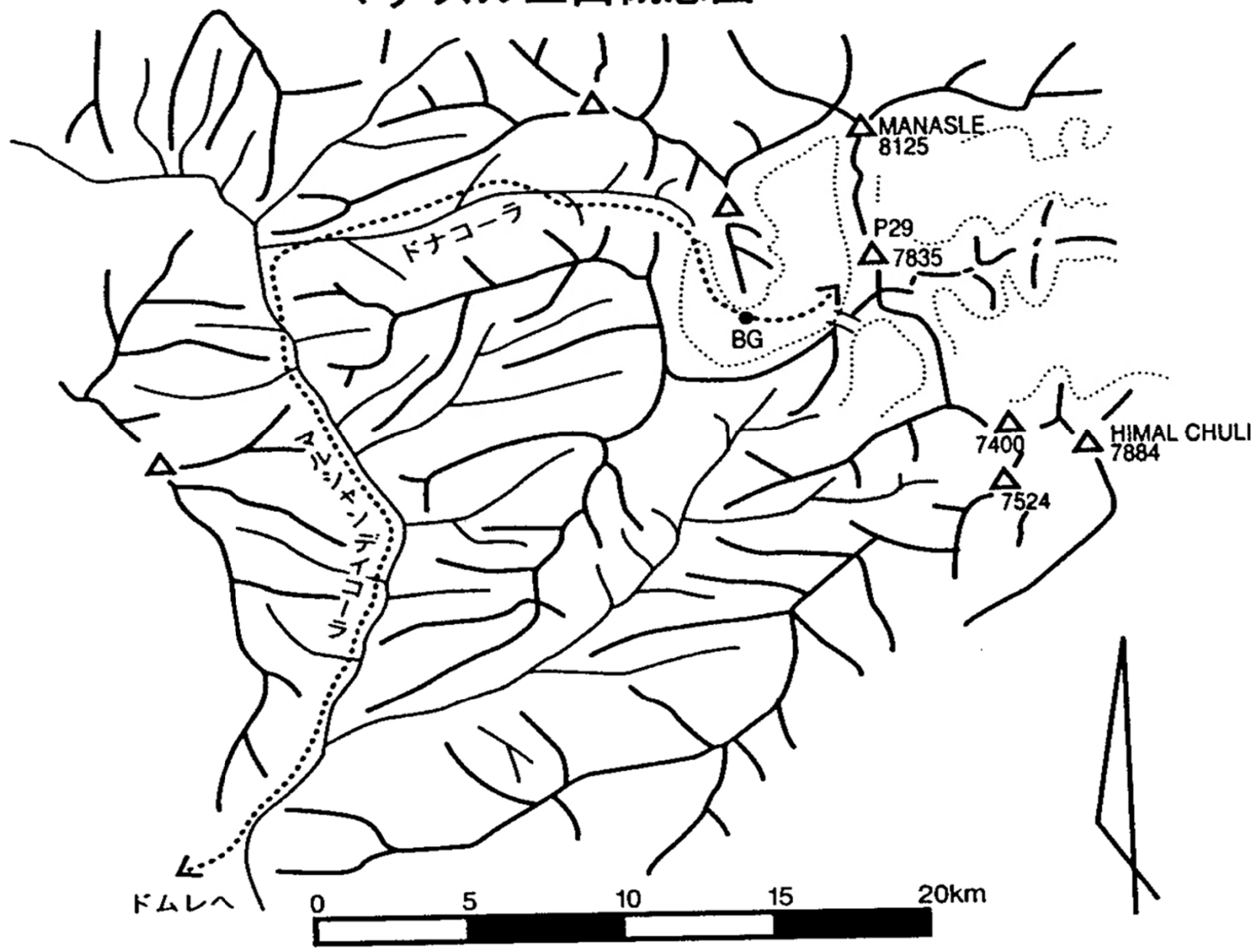
# 仁寿峰（インスボン）



# ネパール・ヒマラヤ



# マナスル三山概念図



8,156 m

マナスル

7.835 m

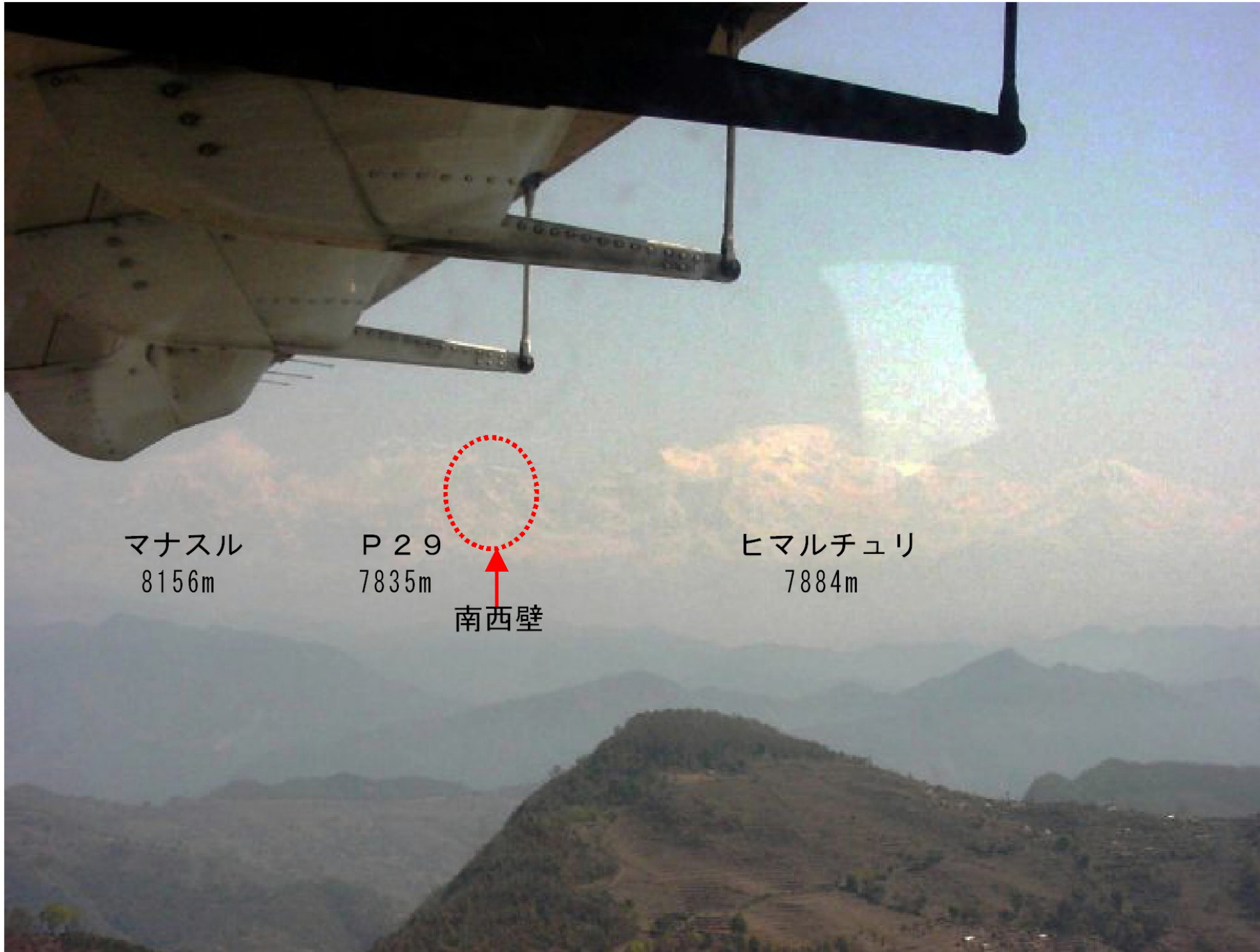
P29

7.884 m

ヒマルチュリ



マナスル3山



マナスル  
8156m

P29  
7835m

ヒマルチュリ  
7884m

南西壁

## 1. 隊の名称

- 邦名 ・ P29南西壁登山隊
- 英名 ・ P29 South West Wall Expedition.1978

## 2. 主催

ツラギの会

## 3. 後援

横浜山岳協会  
神奈川新聞社 (名義)  
TVKテレビ (名義)

## 4. 目的

P29南西壁より南峰 (7,514m) の初登頂

## 5. 隊の構成

隊長	1	名
副隊長	1	名
隊員	8	名
現地渉外	1	名
留守本部	3	名
リエゾン・オフィサー	1	名
サーター	1	名
高所ポーター	3	名
コック	1	名
キッチン・ボーイ	1	名
メール・ランナー	1	名
ローカル・ポーター	2	名
ポーター	165	名

(先発隊：6名，本隊：159名)

8. 予 算

支出総額

12,200,000

(単位・円)

国内費

7,600,000

食料費

500,000

装備費

2,844,000

輸送費

2,800,000

医薬品

400,000

記録用品

200,000

保険

500,000

事務費

100,000

雑費

100,000

予備費

156,000

国外費

4,600,000

登山料

300,000

手数料

92,500

通関料

220,000

輸送費

1,212,500

人件費

701,150

現地購入食料費

500,000

現地購入装備費

700,000

滞在費

460,625

雑費

200,000

予備費

213,225

収入総額

12,200,000

隊員負担金

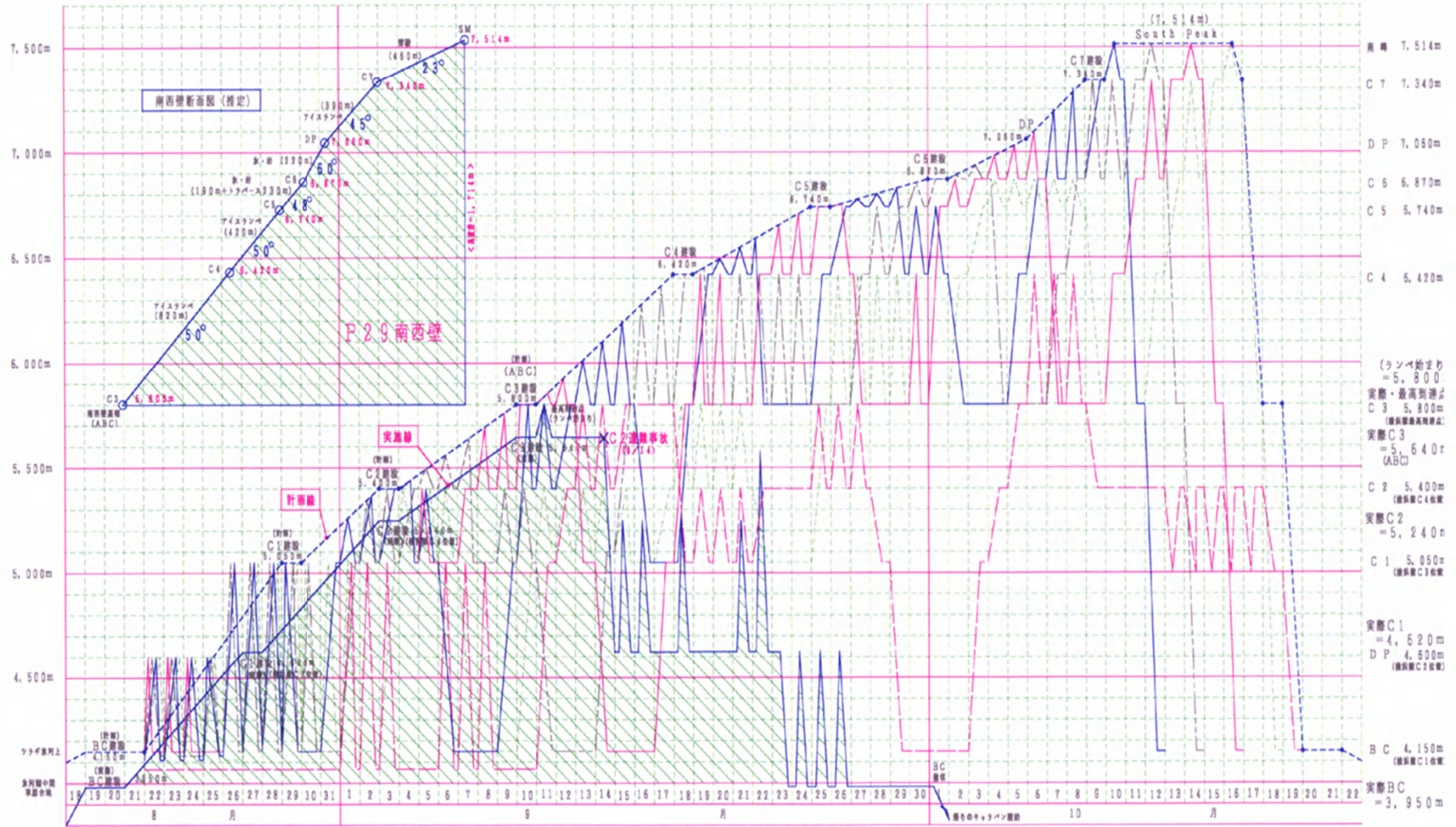
12,000,000 (ひとり ¥1,200,00)

寄付金

200,000

# P29 南西壁登攀計画と実際

計画線と実施線との高度のずれは、高度計の表示値の相違による。C3建設までは、計画とほとんど同じであった。



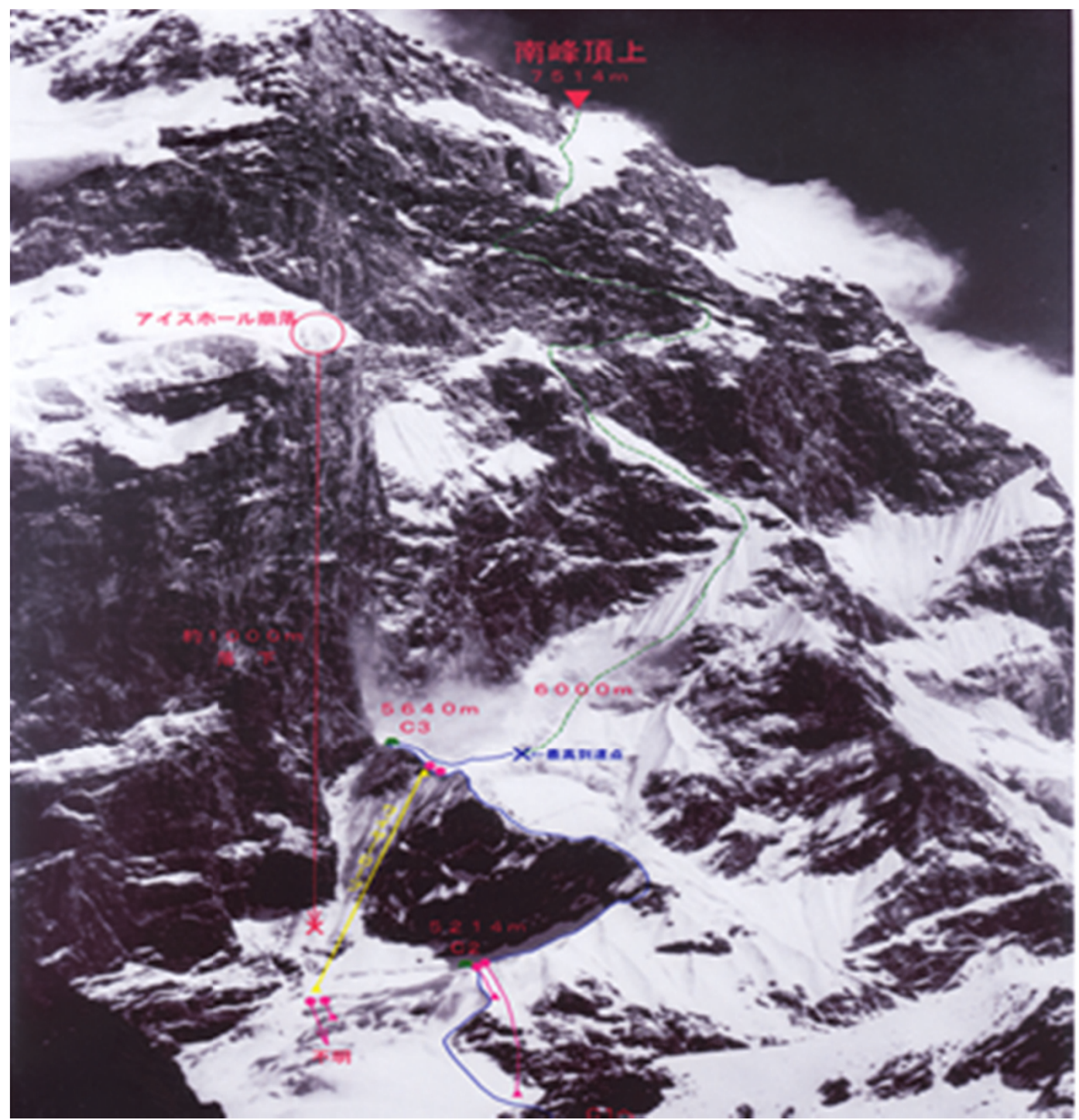


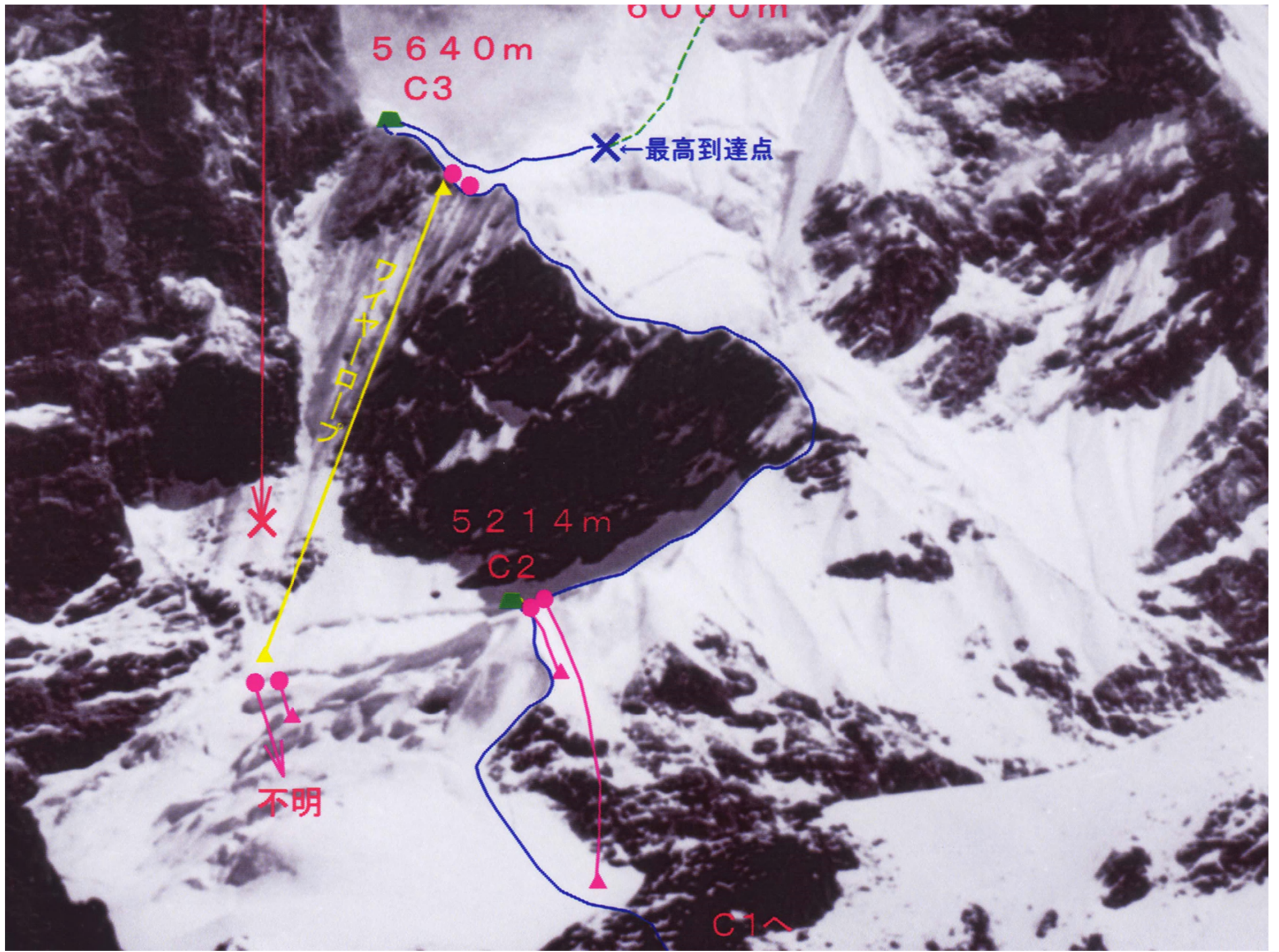




1,978年  
ポストモンスーン

ネパールヒマラヤ  
P29 南西壁





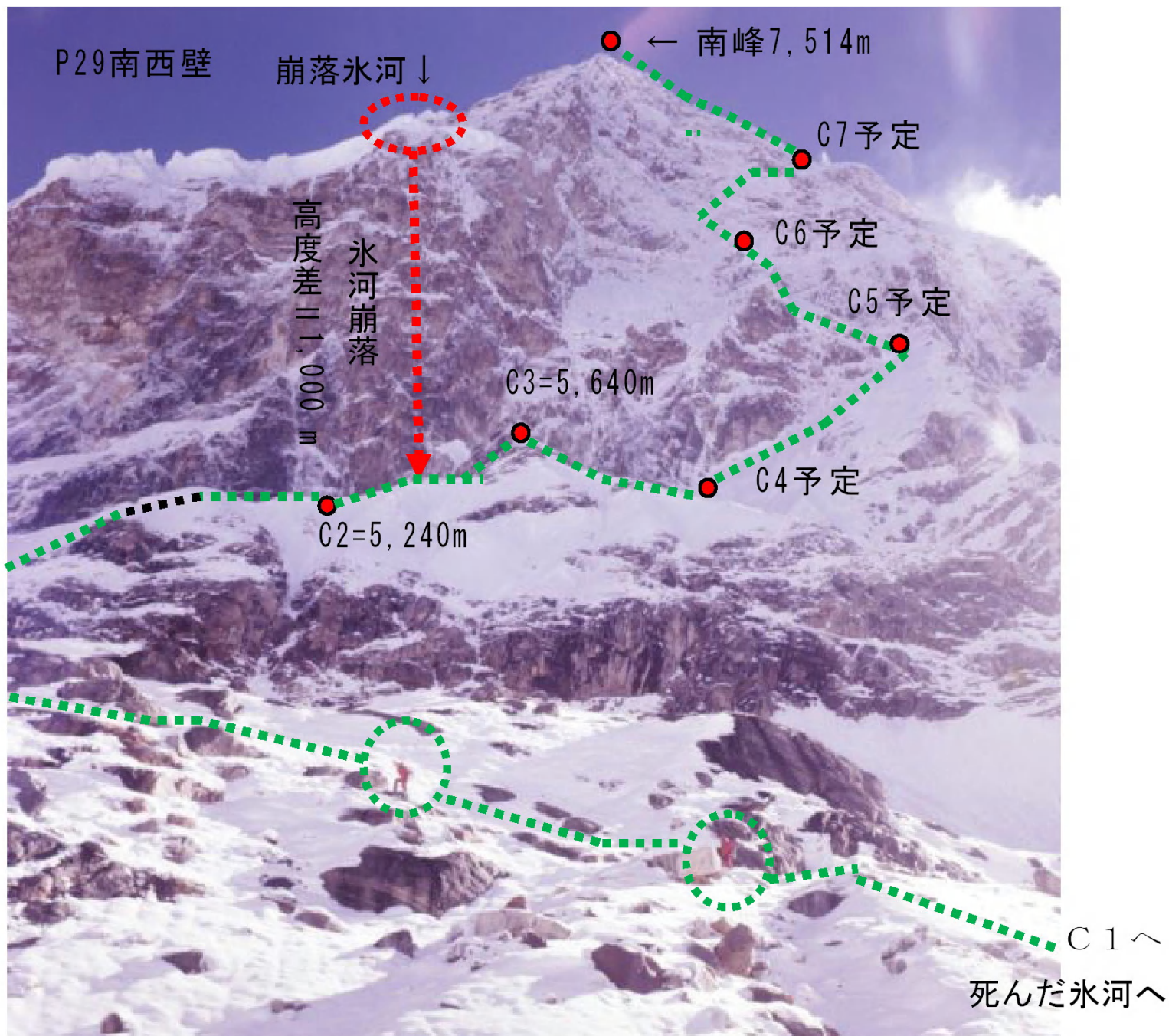


P229 南西壁



南西壁と死んだ氷河

P29南西壁  
正面



# 第2キャンプ下部の台地に 2隊員（牛沢・万実）埋葬







第2キャンプの憩い

5,214 m

9月3日 建設後

1974年春

3月27日～4月28日まで  
33日間滞在

横浜山岳協会隊  
C4





夕焼けの西壁と点線は右写真の雪崩部分

# 西壁の氷河崩壊雪崩

大音響とともに雪片が舞う



西壁の雪崩＝1974年3月～4月  
横浜山岳協会隊

(約1,000m上部) 崩落氷河と思われる部分





# ツラギの会P29南西壁登山隊 合同追悼会



# 家族でアンアプルナ・トレッキング

2,000. 3. 26 ~ 4.2

	期 日	曜日	行 動 予 定					宿 泊			
1	3月26日	日	自宅	→	羽田空港	→	関西空港	→	カトマンドウ空港	→	ホテルマウンテン (OK)
					7:45 <JL0113> 9:00		13:00 <RA412> 18:45		迎え	OK	
					OK		OK				
2	3月27日	月	マウンテン ホテル	→	カトマンドウ観光	( PASHUPATI )	( BODHNATH )	( SWAYMBHU )	→		ホテルマウンテン (OK)
3	3月28日	火	カトマンドウ	→	ポカラ空港	→	カーレ	→	チャンドラコット	→	現地ロッジ (現地手配)
					<RA > (シェルパ1名雇用)		車		トレッキング		
					OK		OK				
4	3月29日	水	チャンドラコット	→		→	トレッキング	→	ポタナ	→	現地ロッジ (現地手配)
5	3月30日	木	ポタナ	→	ダンプス	→	フェディ	→	ポカラ	→	ツーリストホテル (OK)
					トレッキング		トレッキング		車	(シェルパ1名解雇)	
							OK				
6	3月31日	金	ツーリスト ホテル	→	ポカラ空港	→	カトマンドウ空港	→	ホテルマウンテン		ホテルマウンテン (OK)
					車		<RA >		(休憩・観光)		
					OK		OK				
7	4月1日	土	ホテル マウンテン	→	カトマンドウ観光	(パタン) (動物園)		→	ホテルマウンテン	→	→ 夜間出発
									(18:00まで)	送り	
									OK	OK	
8	4月2日	日	→	→	カトマンドウ空港	→	関西空港	→	羽田	→	自宅
					0:05 <RA411> 11:40		14:45 <JL014> 16:00				
					OK		OK				

Annapurna Sough

7,219 m

Annapurna I

8,091 m



2000年3月29日

チャンドラコット



1,981年 8月

子育て前の夫婦で登山

アイガー (ミッテルレギ山稜)

クライマッターホルン (氷壁ルート)

マッターホルン (ヘルンリ稜)



1981年8月 アイガー山頂 (スイス)

2013年

子育て後の夫婦で登山



10月12日 リフトの乗継



10月12日 ダケカンバの道

八方尾根く唐松岳



10月13日 唐松山荘からの日の出



10月13日 下山の道

唐松岳～八方尾根第2ケルンからの 白馬3山 2013.10.13



# 今さらたび丹沢へ還る

2013年  
6月  
より





おおすみ山居

11月16日



おおすすめ山居の和菓子 11月16日



おおすみ山居

日本山岳文化学会有志

2014年2月19日



山岳スポーツセンター

日本山岳文化学会有志

2014年2月19日



# 山岳スポーツセンター

高さ15m

# クライミングウォール

2014年2月19日  
日本山岳文化学会有志



# 新茅ノ沢



倒木の枝に咲く山桜



残雪・倒木・岩で荒れた沢筋



烏尾山直下の急なガレ沢



枝沢の合流点に残る雪渓

2014年  
4月12日

中村あや  
さま

# 山旅の記憶スケッチ展

銀座 柴山画廊



チエルピノー

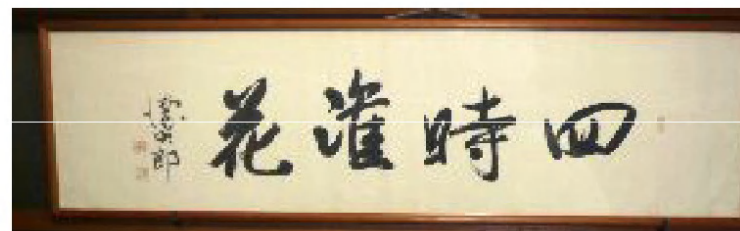
(マッターホルン)



小澤・高崎・中村先生ご夫妻・田中



化の日の4日前でした。しばし雑談の中で、応接間にかけている書、「四時灌花（徳次郎）」へと話題が移ります。「いつもお花に水をあげましょう！」という、日常への配慮、気づきこそが大切であることを教えて下さいます。



天皇機関説事件により、岡田啓介内閣法制局長官を辞任されます。10年の浪人時代を経た戦

後、第一次吉田内閣で憲法担当国務大臣に復活起用された金森国務大臣。世界初の平和憲法制定となる執行原動力は、晴耕雨読の浪人生活で培った知力と胆力であることを、ご息女のあや様を通し改めて実感することとなります。

その後国立国会図書館初代館長となられ、『真理がわれらを自由にする』と書き残された筆跡は、東京本館目録ホールに掲げられているといわれます。真理を悟る知力、自由を担保する胆力、そしていつも花に水やりを怠らない日常の小さな気づかいこそが、あらゆる人々が人として立ち振舞う基礎ではないかと、私は理解しました。

# ツラギ氷河湖の拡大報道（朝日新聞2007.12.25）

6A

2007年(平成19年)12月25日

火曜日

東京

三

発行

150円

東京新聞社



29年前

1978年に名古屋大の調査班が  
撮影したツラギ氷河川同大提供



## ツラギの会（横浜山岳協会）P29南西壁登山隊（隊長・田中文夫）ルート

- 1978年8～9月登攀ルート : ツラギの会（横浜山岳協会）
- - - 同上、キャラバン・ルート
- ▲ C0 ベースキャンプ (3,950m)
- ▲ C1 第1 キャンプ (4,620m)

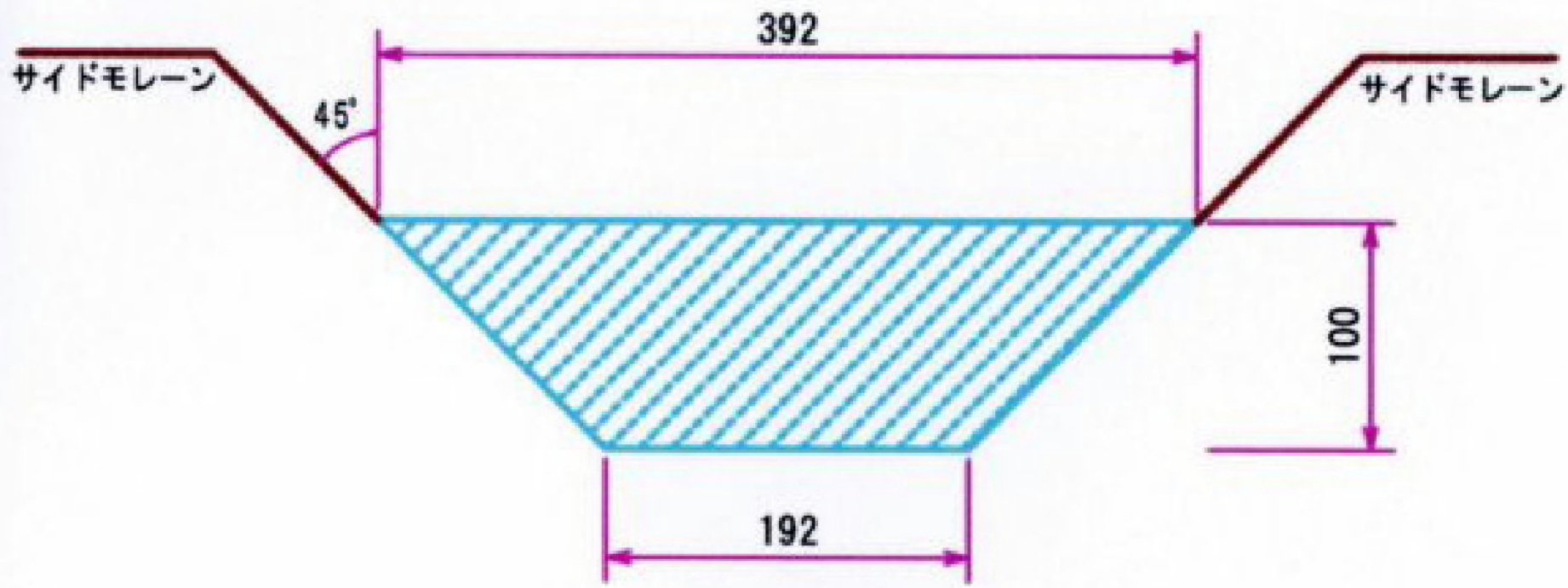




ツラギ氷河の末端  
と氷河湖の先端

陽に溶けてツラギ  
氷河の上を流れる  
小川

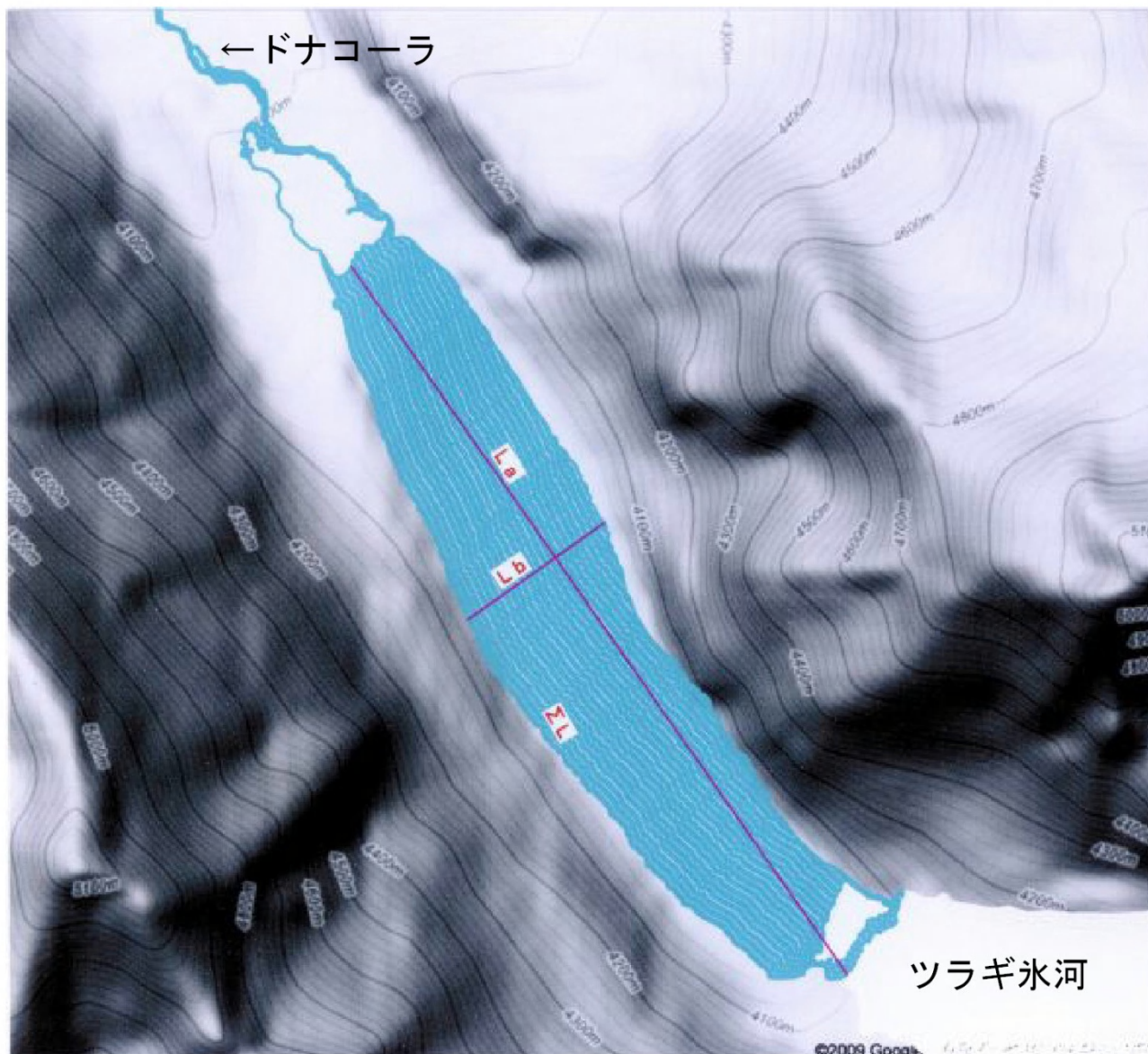




仮定断面図

# ツラギ氷河湖の等高線表示図

Google2009 より



500m

S=1/15,000 (A3版)

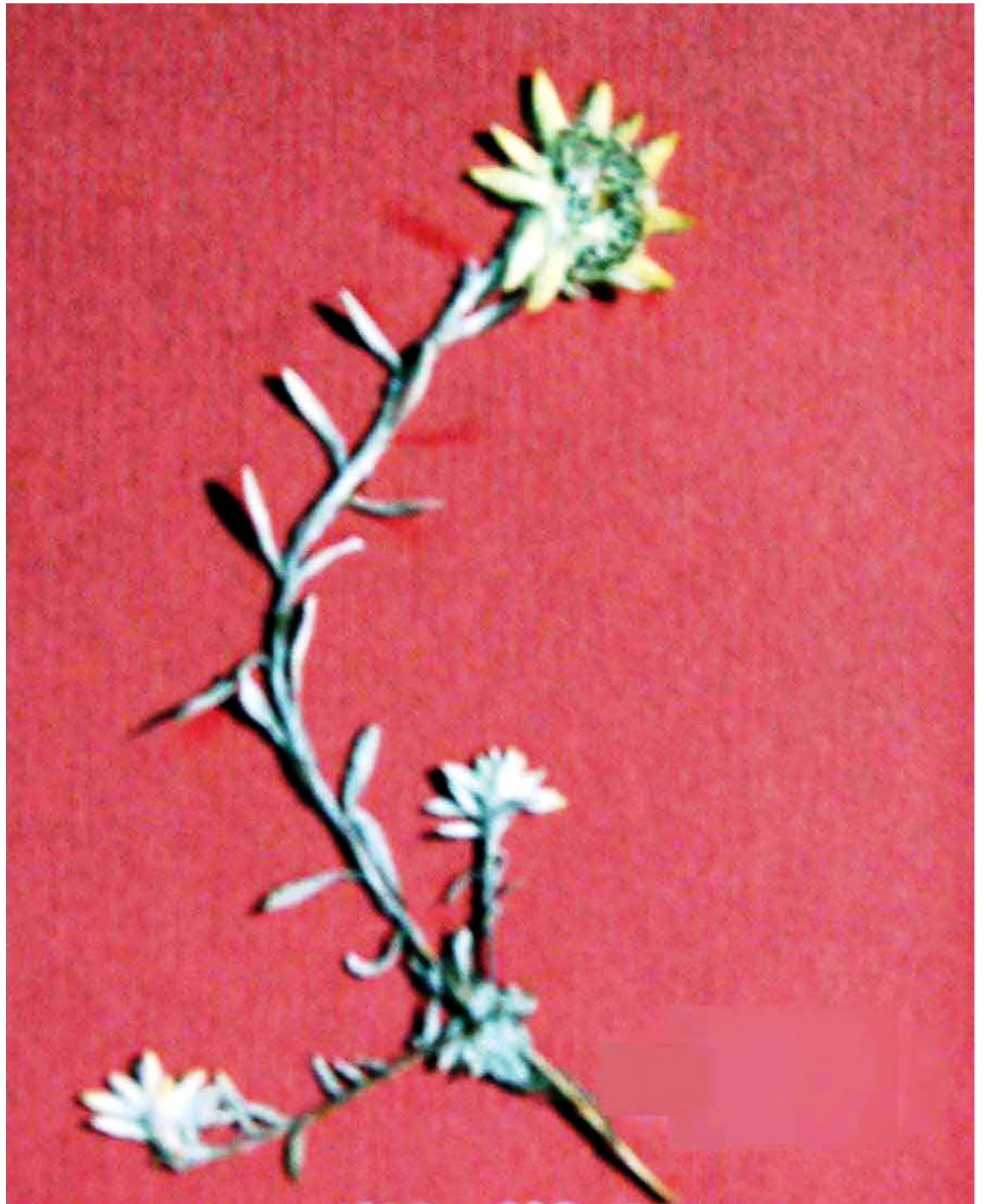
## 推 計 デ ー タ

面 積	:	$A \approx 0.964$	[km <sup>2</sup> ] <東京ドームの20倍>
周囲の長さ	:	$\Sigma L \approx 6.033$	[km]
直線の長さ	:	$L_a \approx 2.460$	[km]
最大の幅員	:	$L_b \approx 470$	[m]
平均の幅員	:	$L_b \approx 392$	[m]
深 さ	:	不明 (想定 $\approx 100$ m)	
推定断面積	:	$D \approx 29.200$	[m <sup>2</sup> ]
推定保水量	:	$\Sigma W \approx 71.832$	[Mt] <東京ドーム58個分>
湖面の標高	:	$H \approx 4.060$	[m]
NAJEの標高 (麓の部落)	:	$h \approx 2.200$	[m]

# エーデルワイス

ツラギ氷河湖のBCに咲く

1978年8月



### 【その1】 単純計算の例

湖面標高（4,060m）と下流のナジェ（Naje）との標高差 $H=2,200\text{m}$ のにより毎秒の水流をドナコーラ排出量 $Q=20/\text{s}$ 、発電機器効率 $\alpha=0.7$ とした氷河湖の発電能力です。

① 発生電力量 :  $P=9.8 \times H \times Q \times \alpha = 9.8 \times 2,200 \times 20 \times 0.7 \doteq 301 [\text{Mw}]$

② 年間発生電力量 :  $E=P \times 24 \times 365=301 \times 24 \times 365 \doteq 2.63 [\text{Twh/年}]$

### 【その2】 下流に小水力発電所を設ける例

取水口と発電所の高度差 $H=100\text{m}$ 、導入管水量 $Q=1.0/\text{s}$ （ $500\phi, v=5\text{m}$ ）、発電機器効率 $\alpha=0.7$ とした場合。

① 発生電力量 :  $P=9.8 \times H \times Q \times \alpha = 9.8 \times 100 \times 1.0 \times 0.7 \doteq 680 [\text{Kw}]$

② 年間発生電力量 :  $E=P \times 24 \times 365=680 \times 24 \times 365 \doteq 6.0 [\text{Gwh/年}]$



**Khopasi 発電所** (800kw×3台、2台故障中)



発電機 × 3台  
(2台故障中)

1台の発電機出力  
3φ3w6.3kv 800kw

(1956年ソ連援助)





エベレスト街道ディンボチェを歩く田中（難波）康子さん 1979年1月2日



# 「笑っているね楽しかったんだね」84歳母

## エベレスト登頂目前 難波さん 最後の写真

今月十日、エベレスト 子さん(母のベースキャン (中国名チヨモランマ) プでの様子を写した写真が 八、八四八に登頂した 見つけた。あこがれのエ べレストを目の前にして、 難波さんはリラックスした

様子で笑みを浮かべてい る。笑っているね。楽しか ったんだね。登頂前の遭難 付近のベースキャンで、 雪と岩をバックにフィルム に納まっている。夫の難波

母の田中嘉世子さん(母)は 賢一さん(母)は「心から休 暇を楽しんでいるようだ。 表情がいいね」。家族に送 られたファクスには、ベ ースキャンでの生活はとて わけにはいかなかった」と 嘉世子さんはつぶやいた。



登山隊の医師、キャロライン・マッケンジ ーさんが撮影したベースキャンでの難波康 子さんと同じくロフ・ホール隊の集合写真。 前列右端が難波康子さん(川いすれもP/S

# 難波康子さん遭難と報道

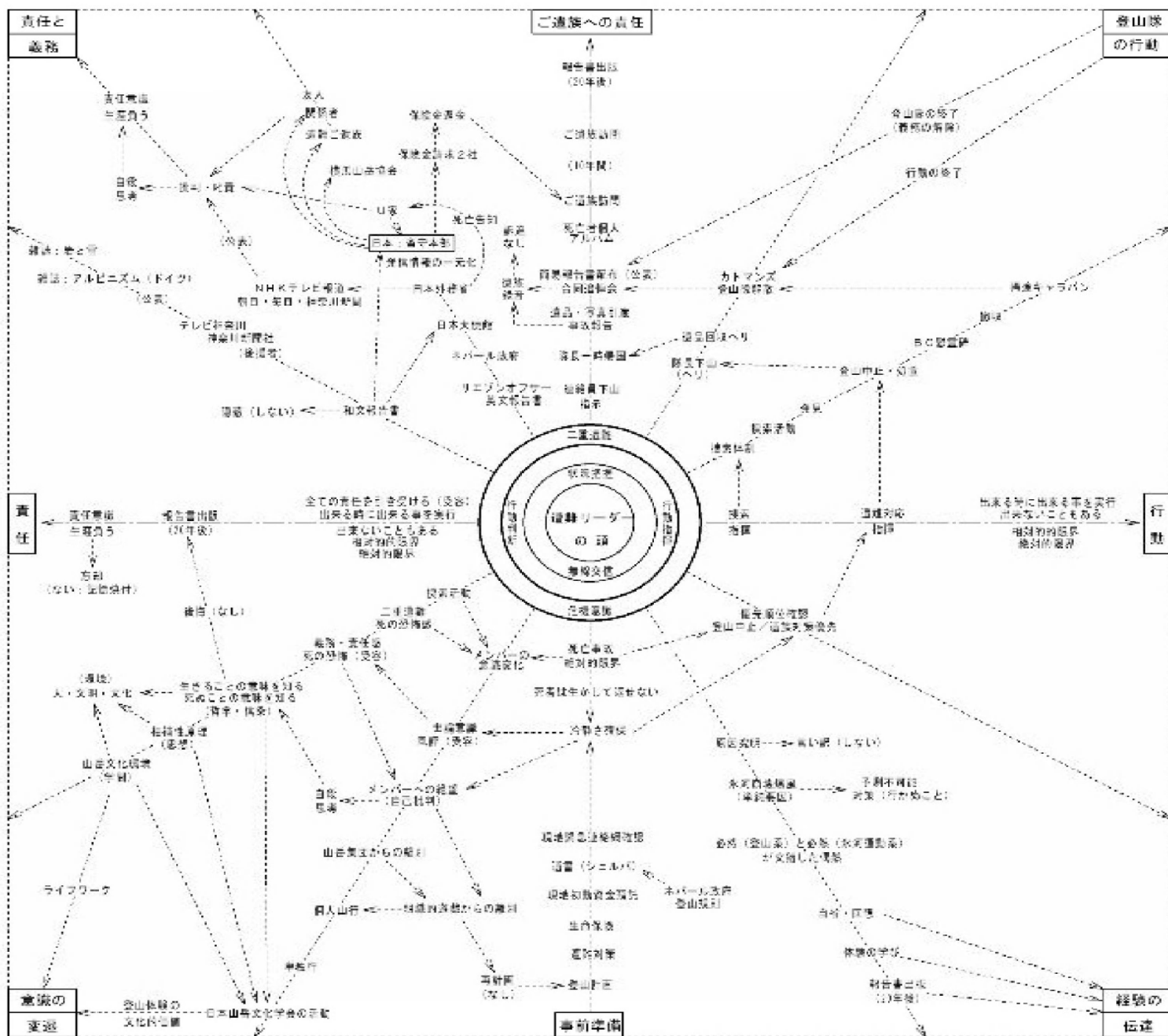
1996年

1996年

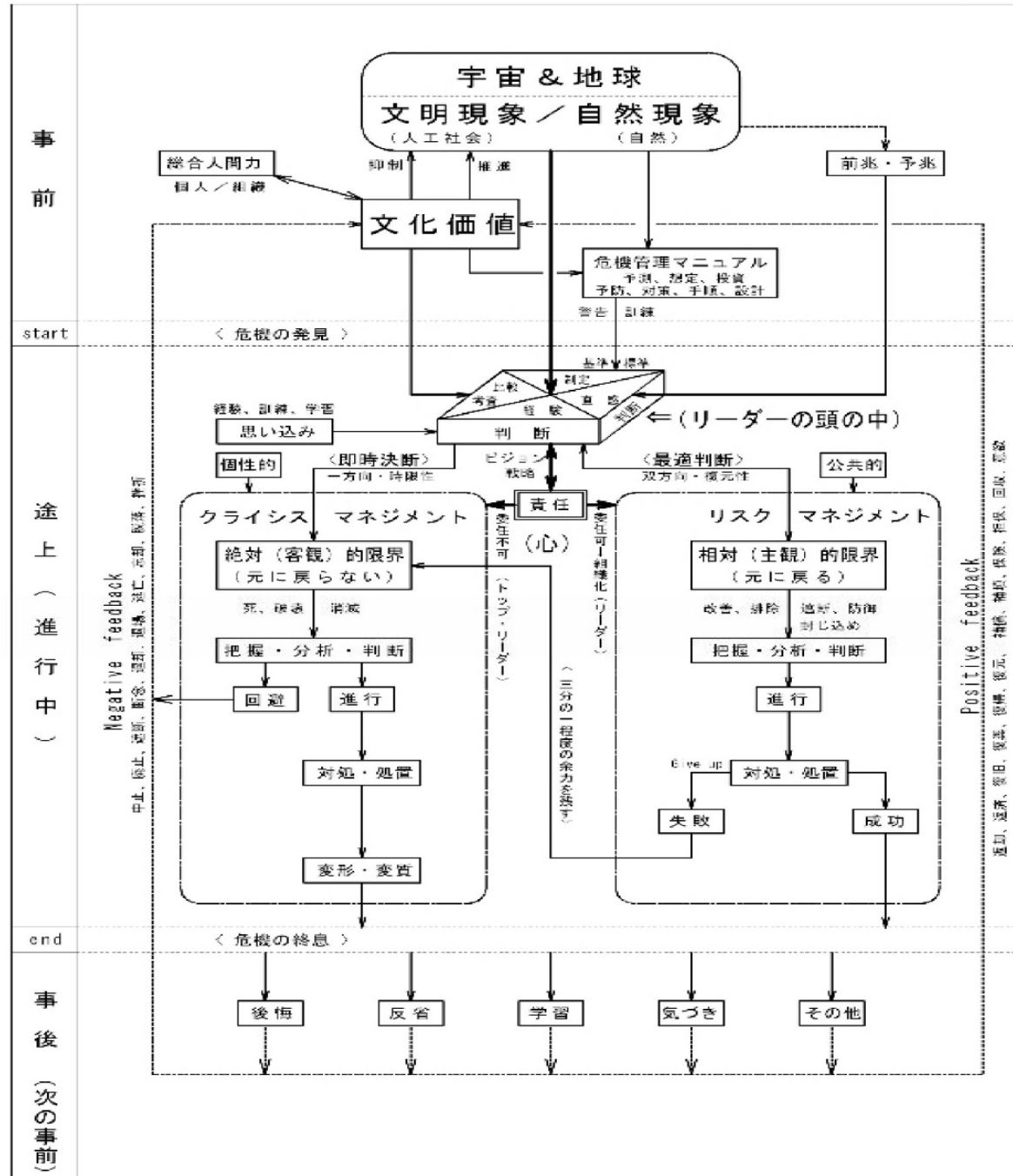
難波康子さん遭難と報道



[ 図—1 ] 遭難時リーダーの思考系統



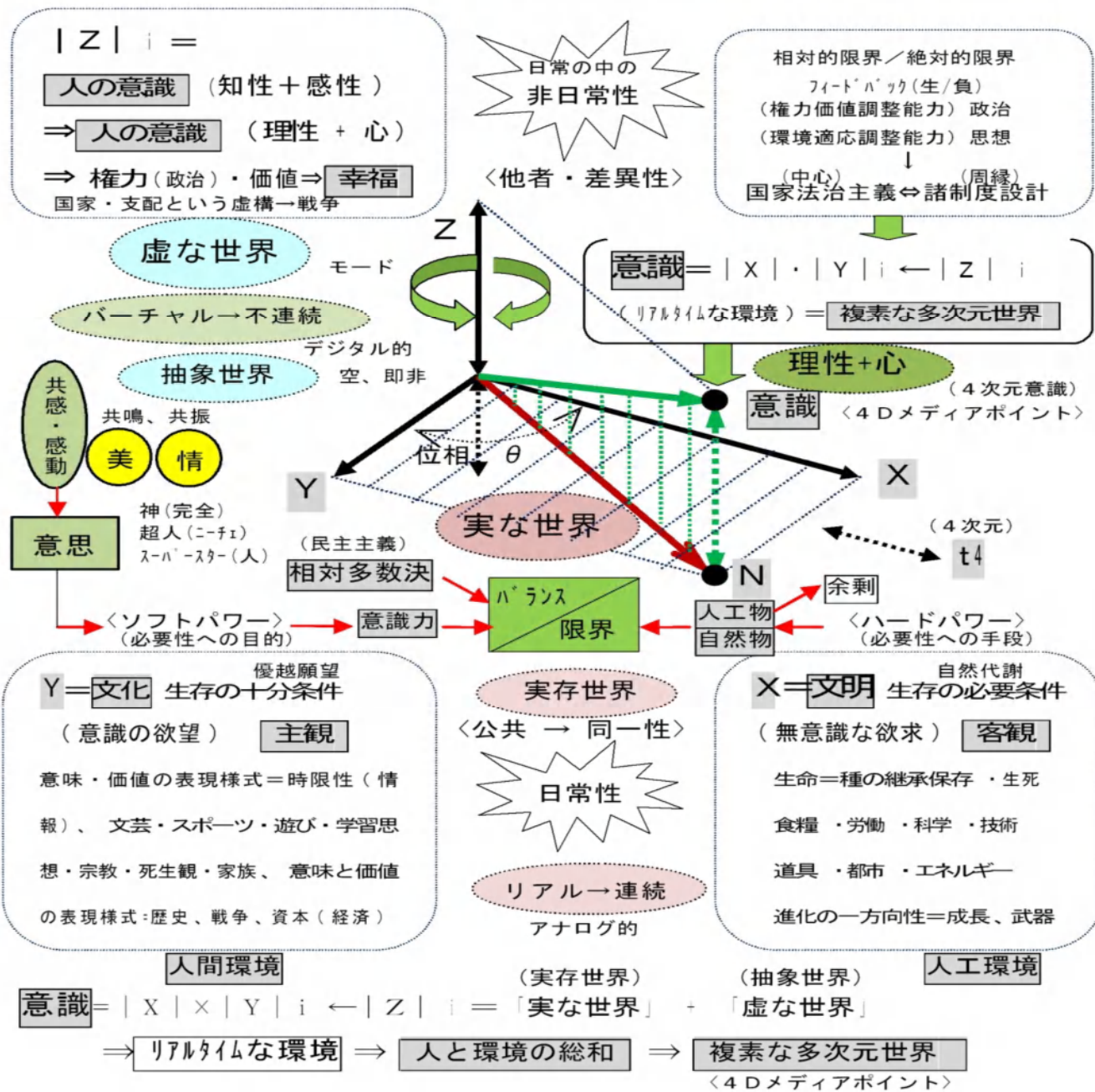
[ 図 - 2 ] 危機管理のリーダー意識



[ 図—3 ]

(父権社会的近代以降)

人の意識・文明・文化=環境の複素な世界構造



物理学、電気工学において、光の伝播はつぎのような波動方程式で表現されます。

$$[ D^2 x + D^2 y + D^2 z - (1/v^2) D^2 t ] \Psi(x, y, z, t) = 0$$

D : 微分記号       $\Psi(x, y, z, t)$  : 波動関数⇒心の関数 (心→波)

アンダーラインの項が「-」となっていますが、「虚数の2乗 ( $i^2$ ) = -1」という「虚な時間」表現を導入すると次式に変換され、X, Y, Z, t の加法総合表現に変わります。

$$[ \underbrace{D^2 x + D^2 y + D^2 z}_{\substack{\uparrow \\ \text{(実な世界)}}} + \underbrace{i^2 (1/v^2) D^2 t}_{\substack{\uparrow \\ \text{(虚な時間)}}} ] \underbrace{\Psi(x, y, z, t)}_{\substack{\uparrow \\ \text{(人⇒心の関数)}}} = 0 \quad (\text{空、虚無})$$

$\uparrow$  (虚な世界)       $\uparrow$

波動は時間的(t)、空間的(x, y, z)な振動減少とみなされますが、それはちょうど人間社会での日々刻々な変化に類似したものと受けとめることができます。空間的(x, y, z)要素を前記の「複素な世界構造」に照らして、X=文明、Y=文化、Z=人意識、としてみると、物質(粒子)的存在となる「実な世界(実存世界)」と、波動(波)的存在となる「虚な世界(抽象世界)」とに対比して理解できそうです。さらに波動方程式の「右辺⇒0」の理解は、仏教的表現においては「空」の世界を示し、哲学的表現においては「虚無」の世界に当てはまるのではないかと考えられます。

【表—3】

進化 = 正 ⇒ 反 ⇒ 合 への変遷

(中村先生の分類から)

状態	正	反	合
1995年5月	エベレスト初登頂(イギリス)		
20世紀後半 から 現代へ	ヒマラヤ初登頂(8000m峰)	岩登り、人工登攀、ボルダリング (アルパインクライミング & フリークライミング)	正・反こだわりのない  学業優先  新しい世代
	未踏の高さへ：初登頂	未踏のルート：初登攀	
	極地法登山	速攻登攀、競技登攀	
	心技体の練磨	個人の能力・趣味	
	世界・国家目標達成の時代 単一目標(世界初)	個人目標達成の時代 多様化(自己充填・満足)	
東京大学山の会 の例	バルトロ、キンヤン、アラスカ、 チューレン	シヴリン、K7、ヨセミテ	ヒマラヤからボルダリングまで
	正・反の交流・支援 ⇒		新世代の育成



進化 = 正 ⇒ 反 ⇒ 合と新 の理解 (田中の分類)

呼 称	正 ⇒ 文明	反 ⇒ 文化	合と新 ⇒ 複素な世界
次 元	1次元 : 直線的	2~3次元 : 空間的	多次元 : 多次元、多局面
意 識	無意識なままに ⇒ 自然のままに一方向的に進化 (科学、技術、生命、記録)	意識的に ⇒ 自然に意識的に逆らう (思想、文芸、スポーツ、遊戯)	意識と無意識の複合 身心 = 体と心 [知性(意識) + 感性(無意識)]
進化の方向	一方向な宇宙時間の中で技術 的適応が進化を図る(直線性) ~物質の性質	一方向な宇宙時間の中で同質 性が繰り返し現れる(周期性) ~波の性質	多次元世界(少なくとも4次元) を理解し、過去と未来を統合 する今(脳と身体)
評価・比較	絶対評価・比較 1局面での強者/弱者	相対評価・比較 多局面での強者/弱者	評価・比較は無意味 異なる次元・局面・世界相互の 比較は無意味
	絶対的単一要素	多様性の中で要素の条件設定	多層構造化(なんでも有り)
人間の条件	生命 : 自然の中	生命 : 自然の中	生命 : 自然 ⇒ 人為的
	自然な欲求(本能)	意識的欲望(心 = 理性 + 感性)	局所化と統合(心身と世界)
	必要条件(生存に不可欠)	十分条件(生存の付加価値)	適正条件(生存の最適化)
	探検・冒険・発明発見	開拓・開発・創造・模索	局所(部分)化と統合(全体)
	人類史観	個人史観	宇宙史観
	鳥の目(自然)	虫の目(心)	宇宙の心眼(目と心)
数式表現	実数 = a	虚数 = b i	複素数 = a + b i

私は大野中学時代、卓球部と社会部の部活動でした。1960年（S-35）3年生の時、平塚市が真土大塚山古墳の発掘調査をおこないました。私立武相高校社会部と大野中学校社会部が参加します。右の写真は卒業アルバムの子部員ですが、皆3年生で私が部長でした。大塚山はセミやカブト虫が沢山生息する雑木林でした。発掘現場で、右写真の勾玉を手にとった記憶はあります。三角縁四神二獣鏡は記憶にありませんが、細かな装飾品が沢山出土しました。

1960、大野中学校社会部



勾玉（平塚市HP）



三角縁四神二獣鏡  
（にこにこ写真館掲示板）

大和朝廷の東国支配のために派遣された宇治部の水系豪族が被葬者ではないかとされます。(今泉義廣・著：前鳥神社ものがたり 2006.01.01：前鳥神社社務所・刊)

三角縁四神二獣鏡は権力の象徴であり、前鳥は「サキトリ(先取)」とも表し、相模川水系を管理する最適な要衝だったそうです。奈良時代の『相模國封戸租交易帳』には「<sup>おおすみぐんさきとりごう</sup>大住郡崎取郷」と記載があるようで(前鳥神社パンフレット)、丹沢「おおすみ山居」とも関連します。前鳥神社と真土大塚山古墳、私自身のルーツなど、次なる探究テーマが増えました。



前鳥神社正面 2014.06.01撮影



15葉の菊花裏紋

16葉の菊花紋は天皇家

16菊花紋はシュメール王家の紋



獅子像(左側)

(図-3) 登山者資質の構造

[表—5]

(田中文夫 1973)

必 要		要 求	欲 望	類 型	記号	目 的 分 類	呼 称		
即 自 欲 求 ・ 登 山 者	人 間 的 諸 能 力 の 自 立 展 開 ・ 文 化 的 欲 求	認 識 的	認 識 的 諸 能 力 の 自 立 展 開 ( 知 的 欲 求 )	学 問 ( 知 的 あ そ び )	Ⅱ 未 知 探 求	①	知的冒険 (知的認識) ～学習	学問	
							体験的冒険 (身体的認識) ～知覚	探検	
		審 美 的	感 覚 的 諸 能 力 の 自 立 展 開 ( 美 的 欲 求 )	芸 術 ( 感 覚 的 あ そ び )	Ⅲ 自 然 沈 潜  Ⅳ 余 暇 利 用	②	(主客分離) 美の觀賞 (主客分離) 自我の確立	観光	感覚 レジャー
							美への同化 (一体化)	観光	
							美の複写 (コピー) 保存 (占有)	芸術	
		思 索 的	総 括 的 意 志 能 力 の 自 立 展 開 ( 主 体 性 欲 求 )	思 想 ( 特 定 制 約 か ら の 自 由 ) 「 生 と 死 」	Ⅰ 精 神 修 養  Ⅲ 自 然 沈 潜	③	自然法則支配の無視～抵抗 (自然疎外) アルピニズム～修養	アルピニスト	
							自然法則支配への没入 ～自己の無視 (自己疎外)	宗教	
							一時の限られた虚構～創作 (思索)	文学、詩	
							自然観察～自己確認 (意志)	哲学、思想	
		ス ポー ツ	身 体 的 諸 能 力 の 自 立 展 開 ( 活 動 欲 求 )	ス ポー ツ ( 身 体 的 あ そ び )	Ⅴ 身 体 鍛 練	④	自然との力比べ (自己解放の感覚) (空間) 身体能力の段階的向上 (時間) 生体 (健康) の維持 (感覚) ～楽しさ	スポーツ レジャースポーツ	

<b>対 自 欲 求 ・ 登 山 家</b>	<b>実 存 的 欲 求</b>	<b>存在</b> 労働	存在を 媒介とした 肯定的自己確認 (創造)	創造の 選択			美の創造 (自己の物質的表現) <b>状況</b> (様式の美的表現)	芸術様式 文芸様式 登山様式 労働様式
		<b>他者</b> 交流	他者を 媒介とする 肯定的自己確認 (愛)	愛の 選択			愛の創造(仲間との関係) 他者媒介～自己愛 <b>目的</b> (自己自身との関係) 自己媒介～自己愛(意味)	ガイド業 パーティ登山 (組織登山)
		<b>自己</b> 自己意識	自己自身を 媒介とする 肯定的自己確認 (統合)	生き甲斐 の選択			生の創造 (生き甲斐として 空間、時間、物質的実践) <b>実践</b>	<b>登山家</b> 、芸術家 文芸家、学者 宗教家 スポーツマン

(引用⇒田中文夫：青春のヒマラヤに学ぶ：P-77：文芸社 2001年)

[ 図—4 ] (差異共存未来社会) 人の意識・文明・文化=環境の複素な世界構造

